



# 8月のほけんだより

平成29年 第201号



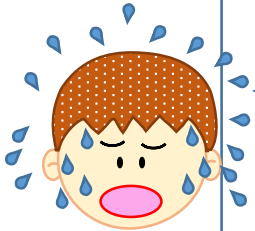
呉市役所  
子育て施設課  
0823-25-3144



## 子どもに多い皮膚の病気

暑くなってくると汗をたくさんかくようになります。また、細菌やかびなども増えやすくなることから皮膚のトラブルが増えてきます。今回は子どもに多い皮膚の病気をいくつか紹介します。

### あせも<sup>かんしん</sup>（汗疹）

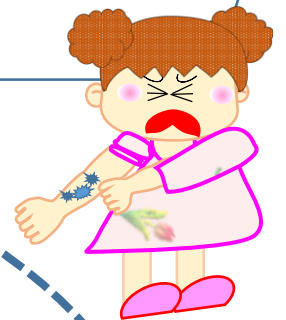


あせもは汗のせんがつまり、汗が皮膚の中にたまったためにでてくる病気です。汗をかきやすいひじの内側・首・膝の裏側などにはゴマ粒くらいまでの小さな水ぶくれができたり、赤い小さなぶつぶつができてしまいます。できるだけあせもを作らないように、涼しく風通しのよい環境にし、入浴・シャワー浴をこまめに行ってください。また、小さな子どもは寝ているときにたくさん汗をかきますから、衣類は木綿などの吸水性のよい物を使用し、汗をかいたときには着替えるようにしましょう。

できてしまったあせもに対しては、ステロイドの塗り薬やかゆみ止めの飲み薬を使用します。かゆみのひどいときには病院に行きましょう。以前はベビーパウダーなどを使用することがありましたが、厚く付けすぎると汗とまじってこびりついてばい菌がつくことがあるので、使用しないほうがよいでしょう。

### とびひ

### でんせんせいのかんしん （伝染性膿痂疹）



虫さされや湿疹などのかゆみがあると、そこをひっかいて傷ができます。汁が出るようになると、その部分にブドウ球菌というばい菌がくっついて爆発的に増えます。そのふえた細菌から毒が出てきて皮膚をこわしてしまい、水ぶくれができてきます。その中にはたくさんのばい菌がいるため、水ぶくれが破れて出てきた汁がほかの場所や別の子どもにつくと、同じような症状を起こしていくため『とびひ』と言われます。

治療は抗生剤の飲み薬と、塗り薬が基本となりますが、かゆいことが多いためステロイドの塗り薬を一緒に使うこともあります。以前は傷があるときにはお風呂に入るのを禁止していましたが、最近では逆にお風呂に入って傷を洗い、その場所にいる細菌を洗い流すほうが有効であると考えられています。塗り薬のみで治すことは難しいので、かゆみがあり水ぶくれができたり、皮膚がただれたりしたときには早めに受診しましょう。



## みずいぼ でんせんせいなんぞくしゅ (伝染性軟属腫)

伝染性軟属腫ウイルスによって引き起こされます。ゴマ粒から米粒の半分くらいまでの小さなぶつぶつができます。ぶつぶつの中央は少し白っぽく見える部分があり、つぶすと白い小さな固まりが出てきます。この固まりの中にたくさんのウイルスが入っています。治療の基本はピンセットなどでつまんで取ってしまうことです。その際に痛みを伴うことや、自然に治ってしまう子どももいることから、医師によっては放置してかまわないと考える人もいます。

しかし、アトピー性皮膚炎のある子どもなど皮膚の弱い子では、急に数が増えることがしばしば見られ、きょうだいや友達にもうつることが多いので、治療を行うほうがよいと思います。ピンセットで取る1時間前に麻酔のテープを貼り付けておくことで、かなり痛みを抑えることが出来るようになりました。数が少ないうちでしたら短時間で治療は終わりますから、子どもの負担も少なくて済みますので、水いぼを見つけたときにはできるだけ早く受診しましょう。



## いぼ じんじょうせいゆうせい (尋常性疣贅)

手や足に『うおのめ』のようなすこし盛り上がった『できもの』ができることがあります。ヒト乳頭腫ウイルスというウイルスでうつる病気です。冷凍凝固といって液体窒素を綿棒などでつける治療が一般的です。しかし、かなり痛く、何度も繰り返さなければいけないため、小さい子どもや、痛み弱い子どもにはできないこともあります。そうゆうときには、ヨクイニンという漢方薬を飲んで、つけ薬と一緒に使って様子を見る場合もあります。治りにくいことが多く、いぼが大きくなってからは本当に苦労しますので、できるだけ早く受診しましょう。

ほけんだよりは、くれ子育てねっとの子育て支援サービスでもご覧になることができます。

URL <http://www.kure-kosodate.com/>